

第124回古民家歴史部会・歴史探訪

「新・東海道の宿場探訪シリーズ」第19回

平成30年2月7日(水)「二宮宿」

*集合：二宮駅(改札口) 9時50分厳守同時出発

*解散：国府津駅

①ガラスのうさぎ記念像： 碑文

太平洋戦争終結直前の昭和二十年八月五日ここ(国鉄)二宮駅周辺は艦載機P51の機銃掃射を受け、幾人かの尊い生命がその犠牲となりました。

この時、目の前で父を失った十二歳の少女がその悲しみを乗り越え、けなげに生き抜く姿を描いた戦争体験記「ガラスのうさぎ」は、国民の心に深い感動を呼び起こし、戦争の悲惨さを強く印象づけました。

この像は私たち二宮町民が、平和の尊さを後世に伝えるために、また少女を優しく励ました人たちの友情をたたえるために、多くの方々のご協力をいただき、建てたものです。

少女が胸に抱えているのは父の形見となったガラスのうさぎです。ここに平和と友情を永遠に

昭和五十六年八月五日

「ガラスのうさぎ」像を二宮駅に建てる会

与えられたとも伝えられています。(寺院境内の説明書き)又、この等覚寺の梵鐘は二宮町の重要文化財に指定されており、寛永8年(西暦1631年)の銘がある。藤の花が咲くころは、境内にある赤い前垂れを付けた6地蔵さんとこの白藤とのコラボに人気があるそうです。

④一里塚：18番目の関所。つまり日本橋から18里(約72km)

⑤松屋本陣跡：和田家は、江戸時代、大磯から小田原両宿の間の宿として御休本陣を賜りました。当主は代々、松屋作右衛門と名乗りました。本陣に立ち寄った大名や旗本などの記録は、「御休帳」といい、大変貴重な資料で、いまでも、ここに保存されている。

②伊達時顕彰碑：治維新以降、この地域の発展と社会福祉の増進に功績のあった一人に伊達時がいます。時は啓蒙思想家として福沢諭吉の影響を受け、民権運動の担い手の一人として国政にも参加しました。二宮駅の開設、秦野二宮間の交通網の整備、郷土の教育に尽くした功績を永く後世に伝えるため、町民有志により昭和26年、二宮駅南口に「伊達時彰徳碑」が建てられました。この顕彰碑の碑文は、明治・大正・昭和に活躍した言論人、徳富蘇峰による筆です。

⑥三宝神社：詳細不詳

⑦浅間神社：詳細不詳

⑧御勧堂：ここには親鸞が民衆を教化した御勧堂(おすすめどう)がある。ここに草庵を結んだ親鸞は7年間過ごしたと伝わっています。

⑨真楽寺：真宗大谷派の寺院。

寺伝によると、真楽寺は当初天台宗の寺院でしたが親鸞聖人が立ち寄られた際、当時の性順住職は聖人のみ教えに導かれ、真宗に帰依したということです。親鸞が指で描いた経文が刻まれた帰命石(mの巨石)や、文殊菩薩の秘仏「マリア観音」がある。

③等覚院：

真言宗の寺院。『梅澤山・藤卷寺・等覚院』と言います。特に有名なのは庭にある”藤”(白藤)で、二宮町の天然記念物に指定されています。樹齢は約400年、高さは240cmで西暦1623年(元和9年)に時の将軍徳川家光公が上洛のときに、当地に駕籠を止めてこの藤の花をご覧になったと伝えられています。又、寛文の頃、仁和寺宮が関東に下向された時に、この藤の花をご覧になり、「藤卷寺」の別号を

⑩親木橋歩道橋：国府津海岸付近でよく獲れる魚が描かれたタイルが埋め込まれている。

⑪一里塚：江戸日本橋から19番目の一里塚跡がある。今は案内板が立つのみ。



松屋本陣跡



茶屋薬師堂



一里塚(二宮 18番目)



等覚院

親鸞上人の草庵跡です。布教のために7年間、庵を結んだ跡



御勧堂



史跡車坂



国府津駅前



二宮尊徳表彰の地

この神社は別名を「星月夜の社」と言うそうです。境内にあった井戸に映る月や星が美しかったとか。

当時の山王神社は星月夜ノ社と いわれ、小田原の名所なりしと、井戸も再現いたし、地底より湧き出る水面に浮ぶ大空の星映る往昔の姿こそ誰が神秘といわんや。この歴史ある 社と共に、星月夜ノ井戸を史跡として長く後世に伝えん。

江戸時代、小田原を流れる酒匂川には橋がなかった。旅人は渡し場から川越し人足によって川を渡らなければならなかった。雨が降り続き、水深が胸あたりになると、川留めとなった。川留めは、旅を急ぐ人々にとって大変な難儀であった。東海道を上方へ向かう旅人は、酒匂川が川留めとなると、付近の農家を借りたり、野宿して川明けを待ちわびた。